

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 10 月 23 日

総合計画体系	政策No.	2	政策名	緑豊かな環境と共生するまちづくり	施策統括課	農政課	施策統括課長名	渡邊 直美
	施策No.	9	施策名	みどりの景観の保全	関係課	環境衛生課、都市計画課、商工振興課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市内全域

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
みどりの景観を保全する

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

山林面積は土地台帳により把握。
市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率は意識調査にて把握。(①、②の合計比率)
設問:「あなたは、身近な里山(雑木林、竹林等)における景観が保たれていると思いますか?」選択肢:①保たれていると思う ②一部そうでないところもあるが概ね保たれていると思う③一部保たれているが概ね保たれてはいないと思う ④全く保たれていないと思う ⑤わからない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 市域面積	km ²
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 山林面積/市域面積	%
B 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率	%
C	
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A	km ²	見込み値				53.17	53.17	53.17	53.17
			実績値	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17		
	B		見込み値							
			実績値							
	C		見込み値							
			実績値							
成果指標	A	%	目標値				12.92	12.90	12.88	12.86
			実績値	12.99	12.96	12.94	12.86	12.77		
	B	%	目標値				55.6	55.6	55.6	55.6
			実績値	未把握	未把握	55.6	45.6	46.2		
	C		目標値							
			実績値							
	D		目標値							
			実績値							
	E		目標値							
			実績値							
	F		目標値							
			実績値							
事務事業数			本数		3	5	6	5	5	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円		0	0	0	0	0
			地方債	千円		0	0	0	0	0
			その他	千円		0	2,957	0	0	0
			繰入金	千円		0	0	0	0	0
			一般財源	千円		1,783	4,054	2,356	2,911	2,311
		事業費計（A）	千円	0	0	1,783	7,011	2,356	2,911	2,311
		（A）のうち指定経費	千円			0	0	0	0	0
		（A）のうち時間外、特殊勤務手当	千円			0	0	0	0	0
		人件費	延べ業務時間	時間			218	168	133	194
	人件費計（B）		千円			873	673	533	776	418
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	2,656	7,684	2,889	3,687	2,729
	基本計画期間における施策の目標設定とその根拠（水準の理由と前提条件）			毎年1haの地目変更（宅地化）があると考えて12.86％に設定した。毎年0.02％づつ山林面積は、減少する予想を立てている。 みどりの景観が保たれているとの支持率55.6％については、竹林等の整備を行い維持していけると考え、現状水準を確保する55.6％に設定した。						
基本計画期間における施策の方針			・土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。							
全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携			・特になし							

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・山林所有者による維持管理
 - ・住宅地の生垣の保全
 - ・コミュニティや地域に里親制度を推進してもらう。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・土地利用計画に基づく保全
- ・竹林の整備補助
- ・市所有の公園を維持管理する。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)

- ・所有者の高齢化、不在地主が増える。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
- ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている。」「大きな河川がない。」との意見があった。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)

A → Δ	【 山林面積/市域面積 】
	: 目標値12.90%に対し実績値は12.77%であり、達成度は99.0%であった。
B → ×	【 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率 】
	: 目標値55.6%に対し実績値は46.2%であり、達成度は83.1%であった。
C →	【 】
	:
D →	【 】
	:
E →	【 】
	:
F →	【 】
	:

※○:目標達成 Δ:目標をほぼ達成(ー5%程度) ×:目標を未達成

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

- ・宅地開発により山林面積が減少したことによる。
- ・管理が行き届いていない(高齢化等により山林整備ができていない。手入れされていない。)ことに起因すると考えられる。

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・宅地開発により山林面積が減少した。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果向上につながる事務事業として、農村集落竹林整備助成事業がある。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・里山の利用・活用方法を検討する必要がある。
- ・山林所有者の高齢化、不在地主への対応を徹底する必要がある。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成21年 7月 1日)

- ・農村集落竹林整備助成事業について、旧西合志地区で取り組まれた方は2名(1,003㎡、1,731㎡)と少なく、まだ周知・広報がすすんでいないと考えられる。また制度の対象が全伐、間伐等の孟宗竹林のみで、委託した場合のみが対象であり、自前で取り組むことは対象外という助成内容にも課題があると考えられるため、補助要綱の見直しを検討すること。また、助成制度の内容等、取り扱いが変わったことの周知が不十分であり、要綱の見直しに加え、整備事業に取り組まれた事前・事後(ビフォー・アフター)の状況を示すなど、身近に取り組んできれいになった里山(竹林)を見せることで、広報していく必要がある。
- ・バイオの観点からの竹の活用については、バイオXとの連携を模索したが堆肥としての利用は難しいとの検討がなされているが、竹の処分に係るシルバー人材センターのチップの利用促進を含め、今後も検討をすすめること。
- ・筍についても、オーナー制度の工夫など、検討をすすめること。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・高齢化の進展に伴い里山の整備が出来ていない所が多くなり、集落ごとに地域の力で竹林伐採等の整備を行う必要が生じている、里山所有者への施策の周知徹底を図るための啓発手法の検討をはじめ、取り組みやすい対策の検討が必要である。
- ・市内の市街地における生垣等の景観コンクールの実施を検討してみてはどうか。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・市街化区域の開発地における景観保全(公園整備を含む)
- ・集落竹林整備の補助基準の緩和。
- ・孟宗竹林の原生の抑制(群山周辺)

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ①荒れている原因の分析結果に基づき、身近な里山の適切な管理をすすめる。
- ②集落の竹林整備については、補助要綱に基づき、さらに整備をすすめる。
- ③みどりの景観の保全に関する市民アンケート結果に基づいて、重点地区を設定し、引き続き身近な里山の保全に取り組む。
- ④平成21年度に立ち上がった特産品地域ブランド推進協議会で、従来のバイオフォレスト構想支援事業を引き継ぎ、竹の活用を含めたブランド化の研究をすすめる。

基本事業名	24 山林の整備
-------	----------

基本事業担当課	農政課
---------	-----

対象	市街化調整区域の山林
----	------------

意図	良好に管理されている
----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 管理がされている山林/調整区域の山林面積(割合)	%	目標値				1.41	1.61	1.82	2.02
		実績値	1.00	1.00	1.20	1.50	1.72		
(竹林整備)		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

目標値については、竹林の一部において、集落周辺の環境保全、筍の生産の為にのみ整備されると思われるので微増で推移し、22年度には2.02%になると設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

身近な里山の風景・景観を保全するため、荒れた竹林を整備する農村集落竹林整備助成事業の実施により、H20年度は11,463㎡(7名)の整備ができた。今後は事業をより広く活用していただくため、周知方法を工夫し、ポイントをしばった取り組みにつなげる。

基本事業名	25 自然の保全
-------	----------

基本事業担当課	都市計画課
---------	-------

対象	市街化区域、市街化調整区域内の山林
----	-------------------

意図	保全区域として保全されている
----	----------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 自然公園面積	ha	目標値				19.3	19.3	19.3	19.3
		実績値			16.6	19.3	19.3		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

平成19年度に蛇ノ尾公園が供用開始し、19.3haとなり、22年度までは、新設の自然公園の計画はないので22年度を19.3haと設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

自然公園の整備計画はないので、前年度同様の数値となっている。